

死生学

専攻

領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目： 英語 試験時間：（ 90 ）分

第1問

模範解答

- (1) 未来の出来事を予測し評価するという精神の働きは中断なく続いていて、この能力のおかげで人間は未来へと導かれ進んでいくことができる。
- (2) 「（人生の）方向を変えるような深い宗教体験や目覚め」を経験したことがあるか、と、回答者にギャラップ社が尋ねた時には、41パーセントの米国人が「自分にまったく当てはまる」と答えている。
- (3) 神秘的な経験は、それに合わせて進化を遂げた脳が一時的に生み出すものにすぎないと、世俗主義的な研究者は示す。
- (4) 意識ではコントロールできない、夢や空想や、精神過程に入り込んでくるものは、〔未来からの〕呼びかけをなしているなんらかのメカニズムなのだと思う。

出題意図

神秘体験に関する上記の内容を理解しつつ、アカデミックな水準の英語を厳密に読み解き、理解する力を問う。

第2問

模範解答

世界の大半の場所で、また長期間にわたり、緩和ケアの支持者の側と安楽死や自殺幫助支持者の側は、意見の不一致状態が続いている。20世紀中ごろにホスピスや緩和ケアへの近代的アプローチを始めた創始者たちは、ほとんど全員、道徳的理由と戦略的理由の双方から安楽死に反対していた。そしてこの反対のスタンスは、時間を経ても広く続いてきた。第一に、緩和ケア推進者たちは、命を終わらせるために介入することは医療の役割ではない、と主張する。第二に、包括的な緩和ケアが利用可能な場合には、自殺幫助の希望はおそらくは生じないか、あるいは生じても軽減されうると、緩和ケア推進者たちは長らく主張している。

これに対して、自殺幫助を擁護する議論は、時に「権利」の要素を含む世俗的な原理に基づいた議論をする傾向がある。一番目にこの原理に含まれるのは、自律である。すなわち、自分の生と自分の死に関する「セルフ・オーサーシップ」〔自己の生の主人公〕の原理である。二番目は、ヘルスケアシステムにおける「選択」という概念が持つ、より新自由主義的な意味である。ここでいう「選択」の意味には、治療やケアの選択肢のみならず、いつ・どのように・どこで自分が死ぬかについての決定も含まれるべきだ、と考えられている。自律と選択というこれら二つの原理に加えて、さらに自殺幫助支持者は、現実問題として次のようにも主張している。必ずしもすべてのケースで緩和ケアが効果的でありうるとはかぎらないし、あらゆるエンド・オブ・ライフケアのニーズに対して、緩和ケアが普遍的な解決というわけではない、と。

出題意図

緩和ケアと安楽死の対立に関する上記の内容を理解しつつ、アカデミックな水準の英語を厳密に読み解き、理解する力を問う。

死生学

専攻

領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目： 専門 試験時間：（ 90 ）分

第1問

採点基準

- ・国内外の政教分離をめぐる専門知識や社会状況の知識を正しく有しているかどうか
- ・その知識に基づき、日本の政教分離制度を、他の国と比較して説明できているかどうか
- ・その知識と比較に基づき、現在の日本の政教分離がもつ課題や特徴について、論理的かつ客観的に自分の考察を述べられているかどうか

出題意図

国内外の政教分離に関する宗教学的な専門知識を問うとともに、それに基づいて、その社会的・政治的課題ならびに宗教学的課題を客観的な視点から考察できる思考力・判断力、およびその思考を論理的に記述する表現力を問う。

第2問

採点基準

- ・宗教の社会貢献活動をめぐる専門知識や社会状況の知識を正しく有しているかどうか
- ・その知識と問題文の読解に基づき、宗教の社会性と反社会性について、自死対策以外の適切な事例を挙げて説明できているかどうか
- ・その知識と事例に基づき、宗教の社会性と反社会性について、論理的かつ客観的に自分の考察を述べられているかどうか

出題意図

宗教の社会貢献活動に関する宗教学的な専門知識を問うとともに、それに基づいて、その社会的課題ならびに宗教学的課題を客観的な視点から考察できる思考力・判断力、およびその思考を論理的に記述する表現力を問う。

第3問

採点基準

- ・ トリアージをめぐる専門知識や社会状況の知識を正しく有しているかどうか
- ・ その知識に基づき、AIを用いたトリアージ支援システムの有効性を推測できているかどうか
- ・ その知識と推測に基づき、AIを用いたトリアージ支援システムがもつ倫理的課題について、論理的かつ客観的に自分の考察を述べられているかどうか

出題意図

トリアージに関する倫理的な専門知識を問うとともに、それに基づいて、AI社会におけるトリアージの倫理的課題を客観的な視点から考察できる思考力・判断力、およびその思考を論理的に記述する表現力を問う。

第4問

採点基準

- ・ パターナリズムを中心とする公衆衛生をめぐる倫理的・政治学的な専門知識を正しく有しているかどうか
- ・ その知識と問題文の読解に基づき、肥満対策という具体的な公衆衛生上の課題を倫理的・政治学的な観点から理解できているかどうか。
- ・ その知識と理解に基づき、肥満対策への社会介入の是非について、論理的かつ客観的に自分の考察を述べられているかどうか

出題意図

公衆衛生政策に関する倫理的・政治学的な専門知識を問うとともに、それに基づいて、その社会的課題ならびに倫理的課題を客観的な視点から考察できる思考力・判断力、およびその思考を論理的に記述する表現力を問う。

第5問

採点基準

- ・傾聴における自己開示をめぐる臨床心理学的な専門知識を正しく有しているかどうか
- ・その知識に基づき、ケアの傾聴実践における自己開示の場面を適切に想定し、そこで問われる論点を想定できているかどうか。
- ・その知識と想定に基づき、傾聴における自己開示の是非と留意点について、論理的かつ客観的に自分の考察を述べられているかどうか

出題意図

傾聴における自己開示に関する臨床心理学的な専門知識を問うとともに、それに基づいて、その実践的課題を客観的な視点から考察できる思考力・判断力、およびその思考を論理的に記述する表現力を問う。

第6問

採点基準

- ・高齢刑法犯に対する矯正政策に関する社会福祉的・精神医学的な専門知識を正しく有しているかどうか
- ・その知識と問題文の読解に基づき、矯正政策の変容を正しく理解できているかどうか。
- ・その知識と理解に基づき、矯正の具体的指導案を独自に作成し、その指導案の狙いを論理的かつ客観的に述べられているかどうか。

出題意図

高齢刑法犯に対する矯正政策に関する社会福祉的・精神医学的な専門知識ならびに社会状況に関する知識を問うとともに、それに基づいて、その社会福祉的課題を客観的な視点から考察できる思考力・判断力、およびそこから指導案を作成する主体性と、それらを論理的に記述する表現力を問う。